

調布市長 長友貴樹様
調布市議会議長 小林市之様

調布LGBT&アライの会
代表 棚木めぐみ

令和5年度予算における、多様な性と生き方に関する要望書

令和4年11月より、東京都パートナーシップ宣誓制度が運用されます。調布市における、性的マイノリティー当事者のQOL改善および、ジェンダー平等、多様な性と生き方に関する施策として、以下の要望をいたします。

記

1、【パートナーシップ条例等の制定と市民へのPR】

パートナーシップ条例を制定し、制定後はそのPRを市を挙げて広く実施してください。この条例が、性と生き方の多様性、ひいてはジェンダー平等を目的とし、生きづらさを抱える全ての人の救済につながる内容となることを望みます。

2、【職員向けガイドライン・市民向けハンドブックの作成】

多様な性の問題は、自身の問題そのものに根差しているのではなく、常に付きまとう周囲の誤解や個々人の無自覚な偏見にこそあります。調布市は、市の職員向けのガイドラインおよび、市民向けのハンドブックを作成し、その両データを市のホームページ内で公開するなどし、職員及び市民の理解推進に尽力してください。ガイドライン・ハンドブックが一人歩きしないよう、作成時に当事者の意見を反映させてください。

3、【専門の相談員の採用】

現在、調布市の人権に関する相談は、調布市より8名の相談員に委嘱されていますが、この中に多様な性に関する相談を受けることのできる専門家は一人もいません。多様な性の問題に対応可能な相談員の採用を望みます。

4、【公立小中学校における、多様性の取り組みの推進】

市内の公立小中学校でのLGBT教育の推進及び、帽子・体操着・水着・制服など学校指定の服装について、性的マイノリティーの子どもたちのみならず、全ての子どもたちが、身に着きたいものを自由に選ぶことができるよう、ジェンダー平等の観点からも、多様性への取り組みの推進を望みます。

以上